

2020年5月27日～8月18日

## 特定復興再生拠点区域における除染・解体作業による放射性セシウムの再浮遊・飛散性の動態把握



【対象】 福島県富岡町大字小良ヶ浜字市の沢  
 【構造】 木造モルタル造り2階、カラーベスト葺  
 【建築面積】 209.66㎡ (延べ床面積 371.48㎡)  
 【建築年月日】 平成21年12月15日  
 【解体年月日】 令和2年10月22日

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
			5/27	28	29	30
						
			重機の搬入 $^{137}\text{Cs}: 0.17\text{mBq}/\text{m}^3$			
31	6/1	2	3	4	5	6
						
	屋内の片付け $^{137}\text{Cs}: 0.51\text{mBq}/\text{m}^3$		$^{137}\text{Cs}: 0.18\text{mBq}/\text{m}^3$	内装の解体 $^{137}\text{Cs}: 0.47\text{mBq}/\text{m}^3$		
7	8	9	10	11	12	13
						
	内装の解体 $^{137}\text{Cs}: 0.32\text{mBq}/\text{m}^3$		$^{137}\text{Cs}: 0.45\text{mBq}/\text{m}^3$	足場組み N/A		
14	15	16	17	18	19	20
						
	屋根解体、窓（サッシ）外し $^{137}\text{Cs}: 0.28\text{mBq}/\text{m}^3$		$^{137}\text{Cs}: 0.20\text{mBq}/\text{m}^3$	内装の取り外し $^{137}\text{Cs}: 0.10\text{mBq}/\text{m}^3$		
21	22	23	24	25	26	27
						
内装の取り外し $^{137}\text{Cs}: 0.35\text{mBq}/\text{m}^3$		東側足場倒壊	解体作業一時停止			

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
28	29	30	7/1	2	3	4
						
解体作業一時停止					足場材の組み直し $^{137}\text{Cs}$ : 0.12mBq/m <sup>3</sup>	
5	6	7	8	9	10	11
						
足場材の組み直し $^{137}\text{Cs}$ : N.D.			外壁及び屋根材外し $^{137}\text{Cs}$ : N.D.			
12	13	14	15	16	17	18
					重機による家屋解体（東側） $^{137}\text{Cs}$ : 0.23mBq/m <sup>3</sup>	
19	20	21	22	23	24	25
						
重機による家屋解体（東側） $^{137}\text{Cs}$ : 0.16mBq/m <sup>3</sup>			重機による家屋解体（西側） $^{137}\text{Cs}$ : 0.21mBq/m <sup>3</sup>			
26	27	28	29	30	31	8/1
						
				解体廃材のフレコン袋詰め $^{137}\text{Cs}$ : N.D.		
2	3	4	5	6	7	8
						
		重機での基礎コンクリート解体撤去 $^{137}\text{Cs}$ : 0.42mBq/m <sup>3</sup> $^{137}\text{Cs}$ : 0.62mBq/m <sup>3</sup>				
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	【空間線量率】23 地点（環境省） 除染前：0.70-2.04μSv/h（2/29） 除染後：0.27-0.56μSv/h（8/28,9/1） 低減率：44-83%			

※大気浮遊塵対照調査（富岡町役場内） $^{137}\text{Cs}$ : 0.15mBq/m<sup>3</sup>（5/22）

◎気塊の流れ（後方流跡線解析） NOAA [https://www.ready.noaa.gov/HYSPLIT\\_traj.php](https://www.ready.noaa.gov/HYSPLIT_traj.php)

大気浮遊塵採取時の気塊がどのような経緯で到達したのかを確認するために、アメリカ海洋大気庁（NOAA）が公開している流跡線解析を利用して、採取時間を遡って解析した結果、南からの気塊が収束して到達した場合、比較的高い<sup>137</sup>Csが検出される傾向が示唆される。一方、海域からの気塊が収束して到達した場合、<sup>137</sup>Csは不検出となる傾向がある。しかしながら、解析精度が粗いため、今後詳細な検討が必要である。

